

## 令和7年度第1回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和7年8月27日(水) 13時30分～15時00分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席8名

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、山口孝委員、荒屋貢委員、齋藤誠司委員、  
佐々木里美委員、菱田廣士委員、小池倫子委員、八重樫節夫委員

【滝沢市】

上下水道部長 古前田 聡

施設課 課長 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵、副主幹 高橋利昌、  
主任主査 高橋 和幸、主査 大内 郁巳

経営課 課長 鈴木 清香 総括主査 田村幸子、主査 佐藤克也、  
主事 藤原 百香

## IV 次 第

### 1 開会

### 2 挨拶

部長挨拶

### 3 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に山口孝委員及び佐々木里美委員を指名した。

### 4 報告事項

- (1) 滝沢市上下水道事業の今後の見通しについて、資料「滝沢市上下水道事業の今後の見通しについて」、「資料1-1・2水道事業・下水道事業」及び「資料2-1・2水道事業・下水道事業」に基づき説明し、これに対し質疑応答があった。

【八重樫委員】上水道の見直しは入っていないが、これは。

【鈴木課長】まず先に下水道使用料の見直しを検討し、その次の段階で水道料金の見直しを検討したいと考えている。

【八重樫委員】上水道の料金であるが、先ほど市長が小刻みに行いたいと話していたが、私も、皆さんもそう思っていると思うが、ある程度年数をおかずに、2, 3年おきの間隔くらいで見直しを行った方が、市民の負担が少なくなると思う。極端に年数

を経て値上がりをする、世代間の不公平が生じると思うので、小刻みにお願いしたいと思う。

昨年のニュースで、姫路市の50%の値上げが報じられていた。大きな要因については詳しくは報道されていないが、かなりの負担が生じ、一般家庭で月5,000円が8,000円くらいになるというものだった。ただ、周囲の市町村は約10%という報道が出ていたので、小刻みに年数をおかずに、市民の負担が軽くなるような料金の設定をお願いしたいと思う。

【鈴木課長】見直しについては、おおむね4年を目安として、進めていきたいと考えている。先ほど市長からの話にもあったように、一気に急激に上げるのではなく、大幅な改定にならないように進めていきたいと考えている。

【山田会長】一応、上水道も下水道も経営計画の中に、どのようなタイミングで経営状態をしっかりと把握して、収入の目安をどのように立てていくのかということ、4年ぐらいのサイクルでみましょうということは計画の中で示されていることなので、それが必ずしも料金を改定するという前提ではなく、経営を見直すということで、必要に応じて目減りしたその収入については、料金の改定で補填していくということだろうと認識している。

【古前田部長】追加で、水道の方の計画のとおりいくと、令和10年度には見直すといったかたちになっているが、今のところ、この経済状況等の逼迫により、少し早めて相談しなければならないという感じになっているので、遅くとも令和9年度には経営審議会の皆様にお話をするというようなかたちになるかと思う。

【菱田委員】先ほど経営課長の方から様々上下水道に関して、将来の収支等について説明があり、当然、給水人口もどんどん減ってきてしまい、滝沢市については、転出の方が転入を上まわっているという話も聞いている。将来的には、埋設管についても当然更新していかなければならない。物価や資材等も高騰している中で、やはり将来的には水道料金等の値上げというのはやむを得ない部分があるのかなと感じている。ただ、その値上がりありきということではなくて、給水人口を増やすための施策で、例えば空き家問題、空き家に人が入れるようなかたちを都市計画との連携で、給水人口を増やすなどと同時に企業誘致も給水人口を増やすうえで、ベタな対策かと思うが、いずれ水道料金等の値上げありきということではなくて、並行にそういう施策等についても、他部署と連合して、やっていただきたい。あと強いていえば、滝沢ニュータウンについては、都市ガスなので地下埋設管が布設されていて、当然、水道も敷設されているのだが、ある程度共有部分ができないのか。一度掘ってまた埋戻して舗装して、またガス会社が舗装を掘削して、埋戻して、仮復旧して、本復旧しているので、そういうところを踏まえて、同時進行に進めていただきたいと思います。また、料金等を値上げする際に関しても、滝沢市民の理解が得られるような丁寧な説明をしていただきたい。

【鈴木課長】値上げありきではなく、努力できる部分については、どのように努力できるかという部分も考えながら、施設についてもダウンサイジングできるところはないか、経営努力についても進めてまいりながら、市民の皆様に丁寧に説明して、進

めて参りたいと思っている。

【山田会長】前回の下水道か水道の料金改定の議論があったときに、今ご指摘いただいたように、この問題の本質は、人口が減って、水が使用されなくなって、結果持て余している施設をどう維持管理していくかという、そこにお金がかかっているという問題がある。そうすると滝沢市はどういうふうに人を増やし、あるいは企業誘致して、水をしっかりと使っていただいて、そのインフラを末永く使っていただくということになっていけるのか。なのでこれも審議会での議論のテーマではないが、市としてのビジョンがどこにあるのか、どういうふうはこの施設インフラを有効活用してもらえるのか、その見通しがないまま、負担だけを市民の方々に求めるっていうのは、やはりそれは無策というように思う。やはりこれからのビジョンも含めて、その見通しについては、インフラを抱えて苦勞して困ったなということではなく、やはりこのインフラがあって街が栄えてよかったなと思える、何か明るい兆しというか、明るい見通しが立てるように是非そのような計画を立てていただきながら、経営の状態を評価していただきたいなというふうに思う。少し私の私見も交えて説明させていただいた。

【齋藤副会長】このお話は、以前、経営戦略の策定したときにもお話したことなのだが、将来的に収入が減って、支出が増えるということは感覚的に分かることなのだが、この資料の表の出し方というのは、プラス・マイナスだけの考え方である。収入がいくらで、支出がいくらで、その差額がこのぐらいになるという、それが純利益というかたちででるかと思うが、確かに純利益の考え方は、分析の一つにはなると思うが、上下水道は企業会計になるので、多分それ以外の会計の見方というものも出てくるのではないのかなと思う。それは、例えば、将来は当然大切だが、今の状況はどうなんだと、まず一番に今の状況が出てこないと、おそらく次に続いていかなのではないかなと思う。みなさん、多分、興味があると思うが、今の会計状態で、借金はいくらして、それをきちんと返せているのか、そういったものの分析を最初にやって、来年度以降につなげていくという考え方をしていたほうがいいのかと思う。見直してポンと出てしまったが、本来やはり足元、今どうなっているのか、皆さんにお知らせした上で、8年度なりに9年度なりに繋げていくというやり方がいいのではないかなと思う。

【鈴木課長】現在の起債残高は、6年度末で、水道が約19億円、下水道の方が約44億円となっている。委員からお話があったとおり、企業会計ということで、今回の純利益だけでは見えない部分については、そのとおりかと思うので、次回以降、審議会の際には、今お話いただいた内容、今の状況がどうなっているのかについても、資料の方を準備し改めてお話させていただきたいと思う。

【齋藤副会長】専門用語が多すぎて、例えば純利益とは何だとか、減価償却費とは何だとか、全部のその説明は、必要ないのだが、そういったものを分かりやすく話をしていかないと、さっきお話あったように、人口が減ってきたら、それではどこが減ってきているのかというところを分かりやすくしていただければよろしいのではないかなと思っている。

【山田会長】 1点、下水道の6ページ目、今後の収支予測の中の要件の4つ目の丸ぼちで、流域下水道維持管理負担金の話が出ている。これが徐々に値上がりしてきたという資料を9ページでお示しいただいているが、おそらくこの負担金は流域下水道なので他の自治体さんも関わってるのでそれぞれの事情が違うということは当然なんだが、これも下水道経営の中でも特に不明水の取り扱いをどうするんだということが議論になっている。滝沢市さんからの不明水の調査資料をかつて経営計画の中でもお見せいただいたりして、思った以上に不明水の負担が大きいんだな、ということを理解している。そのような中でエネルギー費が上がっている、物価が上昇しているから負担金を増やすんだということで、やってしまわれると、不明水は元々雨水なので、雨水の処理のためにこの受益者が負担をしていくっていうのは、少しやはり理解が難しくなってくるのではないのかなと。要するに、不明水対策をしっかりとやっていただくことが結果的に受益者の費用負担の軽減にも繋がるので、流域下水道の運営者からすると当然払わなきゃいけないものであるのだが、それでもできるだけ減らしていく工夫であるとか、あるいはこの不明水をどのように扱うのかということをもう少し自治体間で話し合いとか、あるいは流域下水道の経営者に相談するとか、何か手立てはないものかなということのを少し考えていた。何かその点についての情報があったら教えていただけるか。

【長谷川課長】 県、流域下水道の方で今年度、経営戦略を策定しているところで、その中で、関係市町との意見交換が行われているところであり、出席をしてきたのだが、その不明水の取り扱いについては過去に取り決めた内容を基に算定をされているのだが、そうすると取り組んだところも取り組まないところも同じような割合になってしまうというところで、その点については、少しずつ継続して相談をしてるような状況ではある。

【山田会長】 他の自治体がやっていないというわけではないが、滝沢市は不明水対策のために水が染み込まないようなマンホールに替えていたりとか、耐震化も含めて余計な水が流れないような工事を計画的にやってるいるわけであり、やはりその努力がどこかで報われないと、なかなか要するに足りないから、求められて、いや払えますっていうのは、少し例がないと思うので、是非その辺は今後のこの滝沢市内での更新計画も示しながら、ぜひ交渉の材料にして負担が軽減されるようお願いしたいと思う。

【八重樫委員】 何年か前に、各家庭を回りまして、不明水を排水ならないような措置をしたことがある。4～6年間に、市内の全家でやったと思うが、違うか。

【長谷川課長】 過去には、不明水が考えられるエリアを調査したことがあり、だいぶ減ってきてはいるところではある。

【山田会長】 滝沢市はそういった対策をしているわけで、それが何とか負担金の軽減につながっていくといいなと思っている。

【山口委員】 次回以降で結構だが、大規模災害への備えとあるがどういったものがあるか。予防的な措置かと思うが、維持管理のやり方がさらにプラスアルファしていくのか。例えば大規模災害用に新しい整備をしていかなければならないとか、その辺

りを考えられていることを次回以降何か提示していただきたい。

【山田会長】何か今、回答できるものがありますか。

【長谷川課長】管路については、耐震化を順次進めてきているというところでもあるが、いざ、今起きるとどうなるかということになると、やはり大きな被害は直下型であれば受けるということで、それに備えての蓄えも含めて備えていく必要がある。

あとはやはり公的対応では、対応しきれないというのは当然あるのでその地域の防災訓練とかに出ていって、ご協力いただくところとか、自助共助の部分と周知についてはちょっと今取り組んでるところである。後者の部分については、更新というところで取り組んでいくのだが広報活動についても力を入れていくといった状況である。

【山田会長】次回、是非その耐震化、あるいは災害対策ということで、色々な施設更新があると思うが、優先順位があると思うので、それも是非紹介をいただきながら、説明していただけるとわかりやすいと思う。

【齋藤副会長】これも前の下水道の経営戦略のときにお願いをした話だが、将来の計画値と言われるものが出てくるが、これは全部予測値であり、これは極端な話を言うと、予測値については審議会では審議ができないというのが状況であると思う。

色々調査しなければいけない項目がたくさんあると思うし、全部というわけにはいかないと思うが、1人当たりの水の使用料、本当に基本的な数字になるかと思うが、こういうものの経緯というのは、多分分かると思うので、表題にもあるが、水の使用量の減少による収入の減少ということをまず説明するには、正確になるかどうか分からないのだが、今これぐらいです、去年ぐらいでした、来年これぐらいです、となればそれがまた基本になって、料金の設定というか、目指すべき目標というのが出てくると思う。これが全部予測値でやられるともう何も喋ることはない。なので、基本的な数字については長い期間とは言わないので、今年、来年、去年ぐらいの範囲で結構なので、実際に具体的な数字を示していただいて、それをもって将来の予測値を作るのであれば、それはそれで基本の対象になると思うのでそこら辺を是非よろしくお願いをしたい。

また、会長からお話があったとおり不明水について、名前のとおり正体不明の水なので、対策となると詰まると思うので、やはり表に出てきた場合は、不明の水に対してお金を払うということにもなりかねないので、少なくとも対策、先ほどの協議ももちろんそうなのだが、耐震化とか、維持更新こういったものを適宜、計画の中にも含めていかないと赤字になるっていうだけでは、なかなか皆さんのご理解が得られにくいのではないかなと思うので、今後の進め方の話になったが、そこら辺を加味して、よろしくお願いをしたい。

【山田会長】やはり今、色々ご意見をいただいた内容というのが、やはり単純に収支マイナスになるから上げなければならないという単純な話ではなくて。何をどう我々が取り組んで、その結果、経費的に足りないところをどのようなかたちで補っているのか。その見通しなり戦略がなければ、やはり単純にお金を市民に求めることはできないのではないですか、というその辺の疑問点についてきちんと解消できるよ

うな説明や資料の提示をお願いしたいと思う。

【齋藤副会長】最後の予定のところについて、諮問の時期が書いていないのだが、いつ頃予定をされているのかと、年度を跨いでしまうと各委員さんの任期の話が出てくるので、繰上げるか繰下げるかしないと少し難しいのではないのかなというのを少し危惧していたので、そこら辺を少しお話いただけたらと思う。

【山田会長】諮問は10月の予定でよいか。

【鈴木課長】もしよろしければ、10月次回の審議会の際に諮問を行わせていただければと思う。

【齋藤副会長】10月に行って、来年の何月になる分分からないが令和8年度の1回、2回で答申ということになるか。

【古前田部長】あくまでもこれは最短というかたちで組んでいるが、この審議会の場で、ご納得できないもしくはこの委員の皆さんが変わるときに、引き継ぎが難しいということであれば、この今回から今年度の分はやっていただこうかなと思っているが、その後はその後で引き続き、同じ議題をやっていただくというかたちになるかと思う。なぜそうしなければならないかというのは、今後この料金改定のお話が切れ間なく、常に審議会にかかっていると想定されるので、審議会委員の皆様の任期でくくってしまうと、その度にお話を少し切らなければならないのかなというかたちになっており、できれば最短でこういったかたちで進めたいというイメージであり、これは載せている。なので、あくまでも予定であり、事務局の方の希望といったかたちなので、もし委員さんの方で、これが次年度によって人が変わるから、次に持ち越した方がいいのではないかとということであればそうなるし、その前にこの年度内に決めてしまおうということであれば、それでスケジュールを立てるといったかたちになるかと思う。

【齋藤副会長】見直しとあるので、内容的にどういうものか少し分からない部分もあるが、もしやるのであれば今年度中、2月になるか3月になるか分からないが、そこら辺で一度答えを出すようなかたちで進めていかないと、少なくともまた新しい委員さんが来られる可能性がかなりあるので、そこからまた一からやらないといけないので、それをやっているとどんどん先送りになってしまうということもあるので、気持ち的には今年度中というぐらいの気持ちでやっていった方がいいのかなと思う。

【古前田部長】そこは事務局の方でもう一度考えをまとめていきたいと思う。

【山田会長】この場の委員の皆様のご同意があれば、当然、今後の予定についても前倒しというかたちで、議論が進む可能性もあると思うので、そういう事情にあったとしても対応できるように事務局サイドの体制を変えたりしていただければと思う。

それでは、質疑等ほかになれば、報告事項1「滝沢市上下水道事業の今後の見通しについて」は以上といたしますが、ご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】異議なし。

【山田会長】それでは、ご異議ないということであります。

(2) 社会資本整備総合交付金事業評価について、資料「社会資本総合整備計画 事後評価書」に基づき説明し、これに対し質疑応答があった。

【山田会長】少し専門的な用語が出たので、分かりにくいところは確認していただいて結構なので、ご遠慮なくご発言ください。

【小池委員】雨水についてだが、近年よくニュースになっているが、それに対しての整備というのは追いついているものなのかどうなのか。川の前に住んでいるということもあり、毎日水位が上がっている度に溢れそうになり、大丈夫なのかなとその度に心配している。整備ってというのは進んでいるのか、また計画的になっているのかなというのは是非聞きたい思っていた。

【古前田部長】雨水といっても種類があり、この下水道課が対応してるのが内水面、要は住宅地の中の雨水に対して、側溝とか道路の下に入ってる雨水管というかたちになる。

河川の方の拡張とか護岸となると、今度は河川の雨水というかたちになるので、河川の雨水の方に関しては、仁沢瀬川では少しお時間かかるが、10年ぐらいかけて改修している。巢子川も大体下流の方で溢水するところを何とかぼつぼつと改修している。あとここら辺だと土日ジャンボの辺りも3年ぐらい前から国道の横断から始まり、徐々に上流に上がって改修しているというかたちではある。

なので、ここ1年から3年で、1日で1,000ミリ降るとなると、やはり少し対応ができないかなとは思いますが、100ミリぐらいのものであれば、まず対応ができていだろう。あとは川があるので、雫石川がいっぱいになってしまうと、こちらがいくら出来ていても、もう流れていかない状態になるので、色々、国などとの整合性も図らないとならないというかたちにはなっており、可能な限りというお言葉にはなるが、徐々に進めているといったかたちである。

【山田会長】おそらく、大事なことは、このせつかく対応していただいている対策で工事を進めている整備や台帳の管理ができるようになってきたが、それをどういうかたちで広報されているか、ということであるが、現実的にWEBでその都度、どういう内容について何か紹介のようなことをされているのか。

【古前田部長】今のところはないが、ハザードマップや先ほど課長が言ったシミュレーション等の方が出来上がったら、すぐ皆さんにホームページ等色々なものがあるかと思うがお知らせするということはやっていきたいと思っている。

【山田会長】個々の工事や設備更新等の紹介、あるいは広報ももちろん大事であるが、それが結果的に全体の滝沢市全体の面的な整備のどういう部分を占めているという役割を持っているのかとか、結果的に面的にどのくらいの割合をカバーしているのか、何かそういう理由付けをしっかりといただきながらこの工事のあるいは整備の意味というものを広報していただくことによって、やはり経営への理解が進むと思うので、是非そのような情報提供についてもご配慮いただければと思う。せつかくいろんなこともやっていただいてて、全然知りませんではもったいない。

【古前田部長】こちらもやったことは載せているが、それをどういう目的でというところ

ろまでは載せていないので、そこら辺は少し考慮して載せていきたい。

【山田会長】先ほどの質問の意図を私なりに理解すると、どこまで大丈夫なのかということ。今やはりニュースを聞いていても、時間当たり50ミリを超えるとか、おそらく、排水の計画的なものでいえば、時間当たりの何ミリ以内であれば適切な排水ができるなどそういう工事の基準というものがあると思うので、それに見合っただけで整備をしていく中で、ハザードマップを作ったときに、少し言葉は悪いかもしれないが滝沢市内のどの辺りは大丈夫かなという、その辺の整備によって賄える安全が見えるかたちになっているということは、すごく大事だと思う。是非そこを目指して欲しくて情報提供した。

【小池委員】やはり市民となると、少し理解できないところが結構あるので、本当にわかりやすいように説明してくれると、私だけでなく、近所の方もみんな助かると思うので、よろしくお願いしたい。

【山田会長】これらに関連して少し付け足して、最近のニュースを見て感じるのは、大雨とか線状降水帯が出て、色々と避難行動されている方々の本当に今どきだなど思うのは、ご自身が動画を撮って、それをサイトに挙げて紹介されている映像を見ていると、避難しようとしてるのに、途中で冠水に遭って動けなくなって、救助を求めるような、そういう場面に遭遇することを考えると、今回ハザードマップを作るにしても、逃げ道が確保できているような整備になっているのかどうかとか、何かハザードマップで面的にベタッと逃げ道がないような状態になってしまうのか、そこがすごく気になるように思う。

なので、避難行動を水平方向に避難をした方がよいエリアと垂直方向に避難した方がよいエリアと避難の仕方が変わってくると思うので、ハザードマップの状況によっては、そういう安心をどのようなかたちでもたらせることができるのか、やはり市としても考え方というか、そういう情報を是非分かりやすくお伝えいただけるといいのではないのかなというのを、少し最近のニュースを見ての意見である。

【山田会長】ほか、皆様から社会資本総合整備計画事後評価書について、これはどういう工事ですかという質問でも結構なので何かあれば指摘いただきたい。

【齋藤副会長】最後のページについて、滝沢ニュータウンで取付管改築工事を面的に実施したとあるが、これはどのような工事なのか。

【長谷川課長】取付管というのは、道路の方に入っている下水道の本管から各家の公設枡までに取り付けている管、そちらについて材質が通称Z管といわれているものであった。

【古前田部長】これは、ダンボールにコールタールをしみこませたような作りのもので、ほぼ紙材質で紙を固くした材質を昔使っていたと。それが40年以上経ってしまっていてふやけてきたので、今回、ニュータウンの取付管を1工区から3工区が主になるが交換したということである。

【齋藤副会長】それは、全世帯にZ管が付けてあったということか。

【古前田部長】工区の工事の時期があり、4工区はほぼ入っていなかった。入れた時期によって1、2、3工区がメインでZ管が入っていた。開発の方でそれを使用して



いたというもの。

【齋藤副会長】 4工区除いて全てか。

【古前田部長】 ほぼ全てである。どうしても空き地になり、少しあとから入ってきたところは、もう塩化ビニールの管がついていて、そこは替えなくてよかったので、1件ずつあたって、柵を開けて、カメラ調査をして、Z管であるということでやった。ただご不在になってる家がまだ何件もあり、連絡が取れなくて、強制的にやるわけにもいかなくてできてない家が何軒かある。

【長谷川課長】 継続して連絡を取っており、連絡が取れたところから継続して実施している。

【齋藤副会長】 交換地区ってそういう報告があるのか。

【古前田部長】 Z管はニュータウンだけである。その時期のその開発でその時代のものである。なのでずっと引っ張られて使われていた管ではない。オイルショックあたりの管である。

【山田会長】 質問等がほかになれば報告事項2「社会資本整備総合交付金事業評価について」は以上といたしますが、ご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】 異議なし。

【山田会長】 特にご意見はないようですので以上とさせていただきます。

## 5 その他 要望や意見について委員から発言があった。

【齋藤委員】これも、前回の経営戦略のときに話をしたのだが、報告事項が令和6年度で、予算案が令和8年度で、肝心の当該年度の経営状況がどうなっているのかというのが分からない。今やってることなのに、そこが一番重要なポイントではないかと思うので、もし何らかのかたちで示すことができれば、今どうなっているのかなというのは、やはり必要な事項ではないかと思う。資料はどういうふうなかたちになるか分からないのだが、ご検討をお願いしたい。

【山田会長】10月に開催するとしても、今ぎりぎりで半期分ぐらいは何か実態としての進捗状況を確認できるのかもしれない。あまり事務局への負担をかけたくないが、委員の皆様の理解が進むような情報提供をお願いしたい。

【八重樫委員】先ほど市長から50周年の話があったが、ということは最初の頃の施設の老朽化、法定耐用年数というのは40年ですか。次の下水道使用料の見直しにつきまして、大きな事故が起きないように老朽管の整備をぜひお願いしたいと思う。

新聞でもご承知の通り埼玉県ですけど、大きな事故があって、硫化水素で人命に関わる事故が起きているので 是非ともご留意いただくようお願いする。

## 6 閉会

この議事録は書記の記載したものであるがその内容が正確であることを証するためにここに署名する。

令和 7 年 10 月 2 / 日

滝沢市上下水道事業経営審議会

会 長

山田 一裕 

署名委員

山口 孝 

署名委員

佐々木 里美 

